

# たかつき市民活動ネットワーク NEWS

(NPO法人たかつき市民活動ネットワークの略称:TCAN)

2016.6.30 第53号

発行 : NPO法人たかつき市民活動ネットワーク

〒569-0078 高槻市大手町6-24

TEL/FAX: 072-674-1959

<http://homepage3.nifty.com/ca-minnanoi/>

## 2016年度通常総会報告

5月14日(土)午後1時30分より、高槻市立総合市民交流センター<クロスパル高槻>に於いて、2016年度通常総会が開催された。正会員総数50名中、出席者24名、委任状22名を含めて、46名が出席され、2015年度の、活動決算報告に続き、2016年度の事業計画(案)、活動予算(案)が審議され、原案通り全会一致で承認された。



## 【2016年度重点方針】

山下さんが引き続き2016年度の理事長に就任し、豊富を語りました。

TCANの活動には、人・物・カネが存在します。それを目標に向かって、時間を意識して組み立て実行していくのが組織経営です。一人ではできないことを、チーム力でやろうと言うことです。力を凝集し、重ね合うために重点方針を設定し、それを統合する本年度の合い言葉は「きっと これは何かのチャンス」です。人間の意識は不思議なものです。昨年度の合い言葉は「きっとできる、きっとかなう」でしたね。坂村真民さんの「念ずれば花開く」の言葉もあります。意識を内に熟成して、ふと外部に目を転ずるとチャンスが手の届くところに近づいていますよ。

## 2016年度事業計画

### ◆市民活動への参加を促進する事業

#### (1)総会記念「市民が主役のまちづくりセミナー2016」

の開催(5/14に開催済み) <P-2に詳細>

#### (2)「市民ひろば“サロン・団談”」の企画、推進

みんなの家を拠点に対話ベースの空間を創造する。日頃のちょっとした話題、興味、視野を広げた新しい企画を行う。また、新しく誕生したクラフトカフェの継続を目指す。

#### (3)「社会貢献のひろば2016」の企画・運営

### ◆市民活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会との協働を促進する事業

#### (1)「コミュニティ・ビジネス研究会」活動の推進

e ネット・エージェンシー、NPOコンサルの2事業を中心にコミュニティへ展開していく。

#### (2)被災地支援活動

高槻ジャズストリート実行委員会などと協力しながら、チャリティ活動を継続していくことを検討する。

### ◆市民活動の環境を整備する事業

#### (1)市民活動支援組織の協力・協働事業

関西NPO支援センターネットワーク(KNN)及び、北摂7市の市民活動中間支援組織と横断的に情報交換し、調査を行い内なる事業のヒントにする。

### ◆市民活動に関する調査・研究・政策提言を行う事業

#### (1)「PPPつながりたい」事業

高槻市の動向を把握しながら、他市の活動内容を比較、学習し、特に見直し戦略プランの進行とそれを支えるコミュニティの内実に接近する。

### ◆市民活動拠点施設を管理運営する事業

#### (1)市民公益活動サポートセンターの運営参加

#### (2)市民活動センター「みんなの家」の運営参画

### ◆TCANの活動運営に関する事業

#### (1)会員の拡大

#### (2)会報の発行

## 「多文化共生のまちづくりについて考える～FMわいわいの活動から～」

総会後は例年通り、「市民が主役のまちづくりセミナー2016」が開催された。今年は、東日本大震災以後続けている「震災から学ぶ平時のまちづくり」シリーズの5回目として、阪神淡路大震災時に設立された多文化放送局「FMわいわい」の創設メンバーであり、代表を務めてこられた吉富志津代さんをお迎えして、「多文化共生のまちづくり」について語っていただいた。

FMわいわいは

阪神・淡路大震災の折りに、被災地に住む外国人に炊き出しや救援物資に関する大切な情報を届けようと設立された放送局で、当



初は「FMヨボセヨ」の名称で韓国・朝鮮語と日本語による放送を始め、3カ月後にはさらに「FMユーメン」を開局して、ベトナム語、スペイン語、英語、タガログ語、日本語による放送に取り組んだ。そして震災から半年後にFMわいわいを開局。以来20年間にわたって、多言語放送局として、多文化・多民族共生のまちづくりを目指してさまざまな取り組みを続けてこられた。

FMわいわいスタート時の名称がFMヨボセヨで、開局当初は韓国・朝鮮語と日本語による放送であったことから推測できるように、同FM局のある神戸市長田区は多くの在日コリアンが居住する町として知られる。彼らの間では関東大震災の折りに起こった「朝鮮人虐殺」の記憶が生き続けており、大きな自然災害などがあるとその記憶が首をもたげるといった現実がある。そうした住民にとって、震災直後にFMヨボセヨが開局されたことは大きな安心感につながったように思われる。

加えて今日、長田区は、住民の10%が外国籍という「多文化・多民族のまち」でもある。慣れない異国で非常時を過ごす在日外国人の不安も大きかったと思われ

るが、ベトナム語、スペイン語、英語、タガログ語によるFMユーメンが3カ月後に開局されたことはその不安を軽減することに大きな役割を果たした。それは「自分たちの存在が地域の人たち(日本人)に見える」「自分たちもこの(町の)住民だ」と実感できた安心感だと吉富さん。

吉富さんのお話は4本のDVDを映写しながらのもので、動画を通してお話しが臨場感に溢れて迫ってきた。その中で吉富さんが、「コミュニティラジオ(放送局)の役割は、情報伝達と(それを通じて)地域のつながりをつくり出すことである」「被災者には居場所と出番と役割が必要」とおっしゃっていたことが印象に残った。

FMわいわいで蓄積されたノウハウは現在、国の内外でラジオを媒介にした災害支援につながっており、1999年の台湾大地震、2004年の新潟中越地震などで多言語の情報を発信するとともに、東日本大震災の折りには、気仙沼を初め、岩手県大槌町や宮城県南三陸町などでの災害FM局の開設支援やその後の運営支援もおこなってこられた。

そのFMわいわいもこの3月でFM放送は終了し、インターネット放送に移行されたとのこと。背景には、機材の維持や契約内容の計画に沿った活動をしなければならないなどの制約が負担となってきたことを挙げておられた。



お話に対して会場からは、「これまでのFMわいわいの雇用について」「インターネット放送とFMラジオの違い」「災害FMの設置期間について」「吉富さんのご活躍のエネルギー源は？」等たくさんの質問が寄せられたが、どれにも丁寧にお答えいただき、余韻を残しながらの閉幕となった。

## 「昨年度・力を入れた」こと

地球規模的に、気候が不順で定まらず、このあたりから人々のイライラが発生しています。今年は台風の誕生が遅いと言われつつ、地殻変動の動きは地震災害の頻発を予測させます。

昨年度は、グローバルに災害が目立ちました。それは自然災害と人災でしょう。特に後者はユネスコ憲章の「心の砦」がバリアーになって引き起こしている地域紛争とそれが引き起こした難民問題が一気に顕在化され国際問題化されて来ました。これまでの国境を基礎に置いた外交問題と国連の機能ではこの問題処理は限界に来ています。混迷・混沌はさわまっています。

こんな時期に、これまで食の文化祭でのネットワークで繋がっていた二つの団体「希の会とサダーカ」との協働を意識したネパール地震災害とシリア難民を考えるイベントが実施出来ました。ささやかな切っ掛けを訴える高槻からの発信でした。この計画から実施まで、何回も顔を合わせ討議を重ねたこと、これが重要な経験値となり、次なる思い切った TCAN に脱皮する活動のエネルギーになる事でしょう。

## 「手を合わせて、働いてみる」こと

本田留津子さんの“一人の小さな手、何も出来ないけど、それでもみんなの手と手を合わせれば、何か出来る何か出来る(一人の手)”ロずさんでみると、口元に笑みが浮かんでくる。笑みが生まれることは素晴らしいことだ。これこそ人間のみができる事だと聞いたことがある(チンパーズは笑うという説もあるが)。笑う空気は過ぎすぎた雰囲気はなくす。

そして“働く”という言葉も意味ある含蓄のある言葉だ。“人の力を重ねる”と書くし、“ハタの人をラクにする”とも言う。これも、不思議と元気や勇気をいただける言葉だ。ネパールやシリアのイベントを行う中で、このような事象を節々で感じとれたし、終わってみると“やれば出来るんじや”と満足感の連帯が生まれた。やったから一人一人の人間の中に小さな変化が起こっている。それぞれ参加した個人にとって感じとる収穫物は、社会貢献の旗印を掲げて進む一里塚でもある。

## 2016 年度 主な事業の担当理事

理事長: 山下征紀 副理事長: 丸居美樹夫、牧口明 事務局: 飯村六合夫、藤田精二

2016 年度事業項目	担当
<b>■ 市民活動への参加を促進する事業</b>	
◇総会記念「市民が主役のまちづくりセミナー」の開催	牧口
◇「市民ひろば“サロン・団談”」の企画、推進	山下(とりまとめ)、高橋
◇社会貢献のひろば 2016」の企画・運営	高橋、佐藤、飯村
<b>■ 市民活動団体相互および市民・事業者・行政・地域社会との協働を促進する事業</b>	
◇「コミュニティ・ビジネス研究会」活動の促進	清水、佐藤、(山下)
◇被災地支援活動	高橋、佐藤、飯村
<b>■ 市民活動の環境を整備する事業</b>	
◇北摂地域の市民活動支援組織の協力・協働事業	牧口(とりまとめ)
<b>■ 市民活動に関する調査・研究・政策提言を行う事業</b>	
◇「PPPつながりたい」事業	山下、藤田、西村、丸居
<b>■ 市民活動拠点施設を管理運営する事業</b>	
◇市民公益活動サポートセンターの運営参加	飯村、藤田
◇市民活動センター「みんなの家」の運営参画	飯村、藤田
<b>■ 会員拡大活動</b>	山下(とりまとめ)、全役員
<b>■ 会報(TCAN NEWS) 企画・編集・発行</b>	丸居、牧口
<b>■ TCANホームページ担当</b>	藤田



## 本年度重点を置く事業活動

それぞれの事業担当理事が、自分の担当事業の課題を探り、関係者との折衝を持ち、企画して会員に呼び掛けていく。この運営のスタイルは、前任の鍵谷さんから引き継ぎ、その動きを松浦さんが頑張って逐次 TCAN の HP にて知らせていく。このスタイルを創り上げるのに随分と時間を費やしてきましたが、どうにかカタチが出来つつあります。これが TCAN の資産形成として誇るべきことであります。

昨年度の、外の動きを高槻に取り込み、考えてみるイベントから、本年度は以下の3つに事業を意識的に転換し連携・連帯した動きをめざします。

- ・ 人が育つと、外向きの仕事をし結果としてお金が付随し、余裕が生まれる→お金を生み出す事業が社会貢献することになり、ソーシャル市場に評価され結果として人が育つ
- ・ 若い人(学生)・女性・外国籍の人等の多様な人が集まる会合の場づくり→それぞれの特異性の組み合わせから、異質なネットワークの誕生が会員の拡がりを生む
- ・ 既存のバラバラの市民活動存在→コミュニティ再生という視点での市民参加の結集へ政策提言の実現に近づく

## 事務局だより

本年6月1日に、NPO法の改正法案(特定非営利活動促進法の一部を改正する法律)が成立し、6月7日に公布されました。この改正法は、一部を除いて、来年6月7日までに施行されるものです。その内容を確認し、会員みなさまにご提供できるよう勉強しています。そんな中、TCANの広報活動も変化させていることを報告させていただきます。昨年度より、TCAN会員間のフリーメールを作り、会員間で情報交換をできるようにしました。従って行事会合については、逐次、担当理事よりフリーメールにて案内(お知らせ)することになりますのでご了承ください。

また、高槻ジャズストリートや食の文化祭の「社会貢献のひろば」のとりまとめ主宰団体として、SNSの活用も図っています。(SNS活用の講習会を開催する体制も整いましたので、ご希望があれば事務局へご連絡ください。)

今年から紙面による会報発行は極小にし、電子データとして会員みなさまに届ける試みを始めさせていただきます。当然のことながら会員の皆様の満足度優先ですので、移行において、不具合をお感じの節は、忌憚のないご意見をお知らせください。

## TCANの活動(2016年5月～9月)

◇◇ 定例会議・会合 ◇◇ すべての会議・会合は公開にて、傍聴・発言はOKです。

●理事会(毎月第2金曜日/18:30～) ; ①5/27(金)通常総会後1回目済み。②6/10(金)済み。

③7/8(金)。④8/12(金)。⑤9/9(金)。

◆市民活動センターみんなの家・運営協議会(奇数月第3金曜日) ; 5/20(金)済み。7/15(金)。

9/16(金)

◇ 『社会貢献のひろば 2016 秋』実行委員会を開催します。

継続こそ力です。今年の第8回食の文化祭は10月15日(土)、16日(日)に、高槻城跡公園と隣接の高槻市立第一中学校グラウンドで開催されます。～社会貢献のひろば 2016 秋～の第1回実行委員会(班会合)を7月28日(木)に予定しています。参加要領は別途ご連絡します。ご協力をお願いします。

**編集後記** 会報第53号をお届けします。会報編集中に英国のEU離脱を決めた国民投票のニュースが飛び込んできました。国や政党の指導者は施策によるプラス面、マイナス面を隠すこと無く国民に知らせる責任があります。判断材料を示して国民投票や選挙を行わないと、将来に禍根を残すことになりかねません。丸居・牧口